

米山奨学会：

阿部誠一郎君 無事退院できましたので

新潟第四分区IM報告会 味方義一さん

阿部誠一郎会員、ご退院おめでとうございます。今日より又、皆出席の模範として頑張っていたきたい。9月3日IM（都市連合会）が燕ロータリークラブのホストにより、栗山清バスターガバナーをゼネラルリーダーとし、7名の地区役員をリーダーとして、2560地区第4分区内ロータリアン255名の参加により開催されました。ハーバートRI会長のテーマやガバナーの地区目標を実践活動をする為の勉強会であります。本年度のIMのテーマは

- ①クラブ奉仕部門、会員増強とカルガリー国際大会への参加
- ②職業奉仕、国際奉仕部門、ボランティア意識の向上
- ③ロータリー財団部門、財団米山奨学会への支援

三つの大きなテーマについて7名の地区役員会によりテーマに沿ってそれぞれ所属の委員会の発表がありました。リーダーは野村クラブ奉仕委員（三条）平野職業奉仕委員（分水）大竹職業奉仕委員（三条南）佐野社会奉仕委員（吉田）坂田国際奉仕委員（見附）野本ロータリー財団委員（加茂）山上ロータリー財団委員（三条北）の各氏であります。リーダー各氏のご発表については夫々所属関連委員長よりご報告をいただきますのでよろしくお願い致します。

数年前まではIGF（インターシティゼネラルフォーラム）として新潟県は2ヶ所群馬は1ヶ所で大変大勢の会員を集めて4大奉仕の理解と推進についての勉強会で地区協会の分科会の宿小版と言うところがあって、質疑応答もなく、栗山清ガバナー正式訪問の際各クラブより不満の声を聞き、栗山清ガバナーの私的会合であるロータリーを考へる会を開き、梨本分区代理も参加され、提言されて、現在のようなIM（インターシティミーティング）とし各分区毎のキメ細かな勉強会となったのであります。

IMは分区代理が主催、計画推進するものであり、近隣都市間（分区）が一堂に会し、話し合い分区ロータリー間の相互交流と親睦をはかる目的をもって昨年よりこの型式で開催される事になったのであります。

馬場増強委員長、早川職業奉仕委員長、社会奉仕委員長（代理、木宮幹事）、ボランティアーズ山本社会奉仕委員長、国際奉仕、ロータリー財団については山上地区委員よりご報告をお願い致します。

クラブ奉仕委員会増強委員 馬場委員長

ハーバード・G・ブラウン会長の「特別メッセージ」「会員増強について」地区増強委員の野村さんから話がありました。「カルガリーへの挑戦に応える為目標を定めましょう」世界中で奉仕活動を実践するロータリーの能力を強化するために最も効果的な方法は会員の増強である。

クラブに斬新なアイデアや活力や熱意を注入することに加え、新会員が増えることにより奉仕の

基盤を広げ、より大きなプロジェクトをやりとげることが出来る、その為にも会員増強は必要なのである。先ず会員増強の基本は「職業分類表」にあり、又各クラブ共にあらゆる努力を傾むけ、若い人を会員とすべきです。正会員がシニア、アクティブ会員となり、空席となった職業分類を若い人で充填することが望まれる。次に退会者を出さないよう努力をすることが大切である等の考えが発表されました。

職業奉仕委員会 早川龍雄

分水クラブの平野政寛地区役員が発表された。経済摩擦、バブル経済の崩壊、金融制度の危機、環境破壊、地震、水害、オウム真理教、学校でのイジメ等事欠かない程の事件や出来事が、全方面に亘って発生している。戦後50年の制度が疲労し、一部では破壊が始まっているように思う。

職業奉仕委員会の2部門とも、ロータリアン個人・個人が自分の職業、専門知識、技能そして特技を生かし、社会にアプローチするというのが建前となっている。混迷20世紀末から明るい21世紀への一翼を担って、新しい価値感、新しい産業を生み出す努力をしなければならないと思うと述べられた。

約30年前に作られたという「四つのテスト」は、過去・現在・未来にも立派に通用するものであり、ロータリアンの行動の基本である。又四つのテストをそれぞれアレンジしてみたらどうか。たとえば

- ①真実かどうか（まこと）
- ②みんなに公平か（民主主義の原則自由と平等）
- ③好意と友情を深めるか（信頼と信用を深めるか）
- ④みんなのためになるか（感謝の気持）

そして燕クラブは四つのテストの歌を月の第1例会で唱っているようです。

職業奉仕委員会ボランティア委員 山本 賢

地区ボランティア委員大竹和男氏の講義を頂きました。

- (1)ボランティアとは
- (2)企業ボランティアとは
- (3)ボランティア活動の心構え
- (4)ロータリーにおけるボランティア活動

欧米先進国と比べ、日本が立ち遅れていることのひとつに、「ボランティア」の問題があります。阪神大震災におけるボランティア、国際貢献や海外援助、NGO活動から、環境や人権に関する市民運動。また、選挙に於けるボランティアや、地域のPTA活動まで、およそ今日ほど、ボランティアという用語がマスコミをにぎわす時代は、かつてなかったと言ってよいでしょう。

本年度、重田ガバナーは職業奉仕の主要テーマとして「ボランティア」を掲げ、その意識づくりと各クラブにおけるボランティア活動の組織化に強い期待を寄せておられます。